

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス そろさん別府教室			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、作業療法士のリハビリ系の資格を持った職員が配置されている。	専門的支援実施時に、利用児童に合わせて、就労に向けた自立課題や作業系の微細運動の取り組みや、体幹筋力の向上を目的とした粗大運動の取り組みを行っている。	在籍している職員が継続的に子どもたちの支援に関わることができる環境づくりに取り組むことで、子どもたちの特性への理解を深め、指導員・専門職種での連携を高めることで、より支援の質を高めることができるよう取り組んでまいります。
2	平屋建てで、ワンフロアの為、死角が少なく、職員が目が行き届きやすい作りになっている。	職員の見守り、支援を行う立ち位置等、死角ができないように配置している。	事業所内において、ケガや事故等が無いよう新規職員にも、見守り、支援中の立ち位置、利用児童の特性把握等、情報共有を図り周知徹底していく。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないように工夫されている。	企画立案の担当職員がいますが、時には利用児童たちや、保護者の方の意見を参考に、外出企画等も企画しております。	今後もサービス向上を目指し、多様な意見や、要望を取り入れ企画立案してまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会の頻度について	学校や児童クラブ等での集団活動に参加できない子どもたちも多くご利用いただいているため、地域の他のこどもの活動が精神的な負担になることもあります。ただ単に交流する機会を設けるのではなく、ご利用いただいている子どもたちが負担を感じないよう、交流に目的や目標をしっかりと設定し、子どもたちの特性に十分に配慮した交流の機会を提供する重要であると考えております。	保護者の方が必要性を感じているご家庭が少なく、要望があれば、子どもたちに必要な交流の機会は同世代だけでなく、さまざまな世代の地域の方々との交流ができる機会を設定し、子どもたちが普段の生活の中で関わることがない世代の方々と一緒に楽しく活動する機会を企画・提供できるよう取り組んでまいります。
2	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われているか。	相談希望に応じて面談を行っておりますが、周知や相談しやすさ等見直していきます。 事業所職員が20代、30代のみで構成されているため、助言を行う際に、説得力が無いように感じられる。	同会社の別事業所と連携を図り社内での事例検討を行うことや、できる限り、様々なテーマの研修に参加し、事業所に持ち帰り、内部研修などを行う事で、幅広い職員に、情報や知識などを共有していく必要があると感じている。
3	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	現在該当児童がいない為、障がい福祉サービス事業所への情報共有は行っていません。	該当児童が出てきた場合には、サポートブックなどを作成するなどして、障がい福祉サービス事業所への情報共有を行っていく。